

史跡小笠原氏城跡の構造の魅力

滋賀県立大学名誉教授 中井 均

◆はじめに

- ・長野県の城跡の国史跡指定状況 ⇒ 高梨氏館跡(中野市)、松代城跡附新御殿跡(長野市)、上田城跡(上田市)、龍岡城跡(佐久市)、松本城(松本市)、小笠原氏城跡(松本市)、高遠城跡(伊那市)【7件(中世城館跡に限っては高梨氏館跡と小笠原氏城跡の2件)】
- ・単体指定ではなく群指定 ⇒ 松前氏城跡(北海道：福山城跡・館城跡)、津軽氏城跡(青森県：種里城跡・堀越城跡・弘前城跡)、小笠原氏城跡(長野県：井川城・林城跡)、赤松氏城跡(兵庫県：白旗城跡・感状山城跡・置塩城跡)、山名氏城跡(兵庫県：此隅山城跡・有子城跡)
【単体ではなく、群指定によって守護や戦国大名の居城の変遷がよくわかる】

◆史跡小笠原氏城跡とは

- ・史跡小笠原氏城跡 ⇒ 井川城跡と林城跡(林大城跡、林小城跡)から構成される【群指定によって松本地域の中世から近世への移行期を物語ることができる】
※平地居館と山城

◆井川館跡の構造と魅力

- ・信濃守護小笠原氏の居館【守護所】
その立地 ⇒ 薄川と田川の合流点の南岸【低湿地であり、決して立地条件の良い選地ではない】
守護として府中を押さえねばならないものの、その中心部に入ることができなかった結果か
- ・悪条件の克服 ⇒ 土壇状盛土をおこない曲輪造成【南北約100m、東西約70mの規模】
方一町の守護所クラスに近い規模 ⇒ しかし、一方で方形館とはならない構造【低湿地を何とか克服した苦肉の構造】
- ・花の御所体制は全国一律ではない ⇒ 井川城の姿にこそそれぞれの地域における独自性が示されている【大きな魅力】
- ・発掘調査された井川城 ⇒ 土壇状盛土に複数の遺構面が確認された【掘立柱建物、礎石建物などが検出された】
- ・出土した瀬戸陶器より築城は14世紀後半 ⇒ 小笠原氏が信濃守護に任ぜられた直後に築城

最盛期は 15 世紀前半~中頃 ⇒ 15 世紀後半には機能停止【林城山麓の林山腰遺跡は 15 世紀後半からの遺跡】

見事に井川城から林城への小笠原氏の本拠の移転を示している

◆林城跡の構造と魅力

- ・居館(井川城)から山城(林城)へ ⇒ 平地居館や臨時的な山城では対処できない時代へ

【人工的な防御施設を構えた山城の出現】

- ・大城と小城から構成される巨大な山城 ⇒ 両城間に挟まれた大嵩崎谷の存在【居館や城下の可能性】

※越前一乗谷朝倉氏遺跡、近江小谷城と同じ構造

- ・戦国時代の山城は土木施設 ⇒ 山を切り盛りして築く「土の城」【曲輪、堀切、土塁、切岸によって防御】

- ・大城の西北西尾根上に築かれた無数の小削平地 ⇒ 堀切ごとに切岸の高さ、削平地の広さが明確に異なり極めて計画的に築かれた施設であることがわかる【面積的に家臣などが居住する曲輪とは考えられない】

尾根から攻めてくる敵を封鎖する防御施設の可能性が考えられる ⇒ 小城の北尾根斜面や北西尾根にも同様の小削平が無数に構えられている【大城、小城が同じ防御意識によって築かれた山城であったことを物語る】

※近年の赤色立体図(レーザー測量))によって全国的にこうした小削平地が山城斜面に存在することが確認されている

- ・圧倒的規模の堀切 ⇒ 背面の尾根筋を遮断する多重の堀切の存在【土の城の真骨頂】
- ・土の城に導入された石積 ⇒ 戦国時代の山城は山を切り盛りして築く土の城が基本【そうしたなかで松本周辺、飛騨、美濃、近江、播磨、備前、北部九州などの地域では 15 世紀後半から 16 世紀前半に石積や石垣が導入される】

松本周辺で集中するが戦国期の石垣、石積はここより北では認められない ⇒ 戦国期の石垣、石積の北限地

※近世の城郭も関東、東北では大半の城郭で石垣は用いられない【石材がないのではなく、石を用いない城こそが城であった】

- ・石積はいつ築かれた ⇒ 天正 11 年(1583)の天正壬午の乱後の徳川家康支配段階で築かれたものか?【しかし、徳川家康にはまだ石垣構築技術は恐らく存在しない】

武田氏による山城にも石垣は導入されていない ⇒ 松本の山城の石垣は戦国時代の地域的特徴として捉えることができる

- ・石積の特徴 ⇒ 扁平な石材を布積し、背面に 2 列目の石積を伴う(控積)。その法面は垂直に近い。また、基底部にアゴ止め石を伴うものもある【松本周辺地域の地域的特徴として捉えることができる】

- ・織田信長の安土城に先行する各地の石垣、石積の系譜 ⇒ 近江守護六角氏の居城観音寺

城【金剛輪寺が関与】、越前一乗谷朝倉氏遺跡【白山平泉寺の影響】

※いずれも矢穴技法によって人工的に割られた石材が用いられる

- ・松本周辺 ⇒ 殿村遺跡で検出された15世紀後半の石積や虚空蔵山城で検出された15世紀後半から18世紀前半の石積【こうした素地があり、16世紀中頃の山城に石積が導入された可能性が高い】

◆おわりに

- ・林城から松本城へ ⇒ 天文19年(1550)の武田晴信軍による府中侵攻【林大城、深志城、岡田城、桐原城、山家城の自落】

晴信の深志城の改築城【信濃の拠点城郭へ】

井川城→林城→松本城という中世から近世に至る信濃の城郭(政治拠点)の変遷を知ることができる

- ・史跡小笠原氏城跡は小笠原氏によってのみ用いられた城ではない ⇒ 後の武田氏や徳川氏によっても用いられた【城跡は決して有名な城主や武将だけの時代だけに用いられたものではない】

現存する城跡遺構は最終年代を示すに過ぎない ⇒ それは地域の誇りを否定するものではない【さらに歴史の重層性を語ってくれる】

- ・小笠原氏城跡は井川城跡、林城跡だけではない ⇒ 水番城跡、桐原城跡(県史跡)、山家城跡(県史跡)、埴原城跡(県史跡)など周辺の山城も重要【国史跡としてさらに追加指定へ】
- ・史跡小笠原氏城跡のこれから ⇒ 国史跡に指定されたのはゴールではない【あくまでもスタートラインに立てた】

整備と活用が重要 ⇒ 郷土の誇りとなり、さらには郷土愛の醸造の場へ【これからの整備に大いに期待したい】

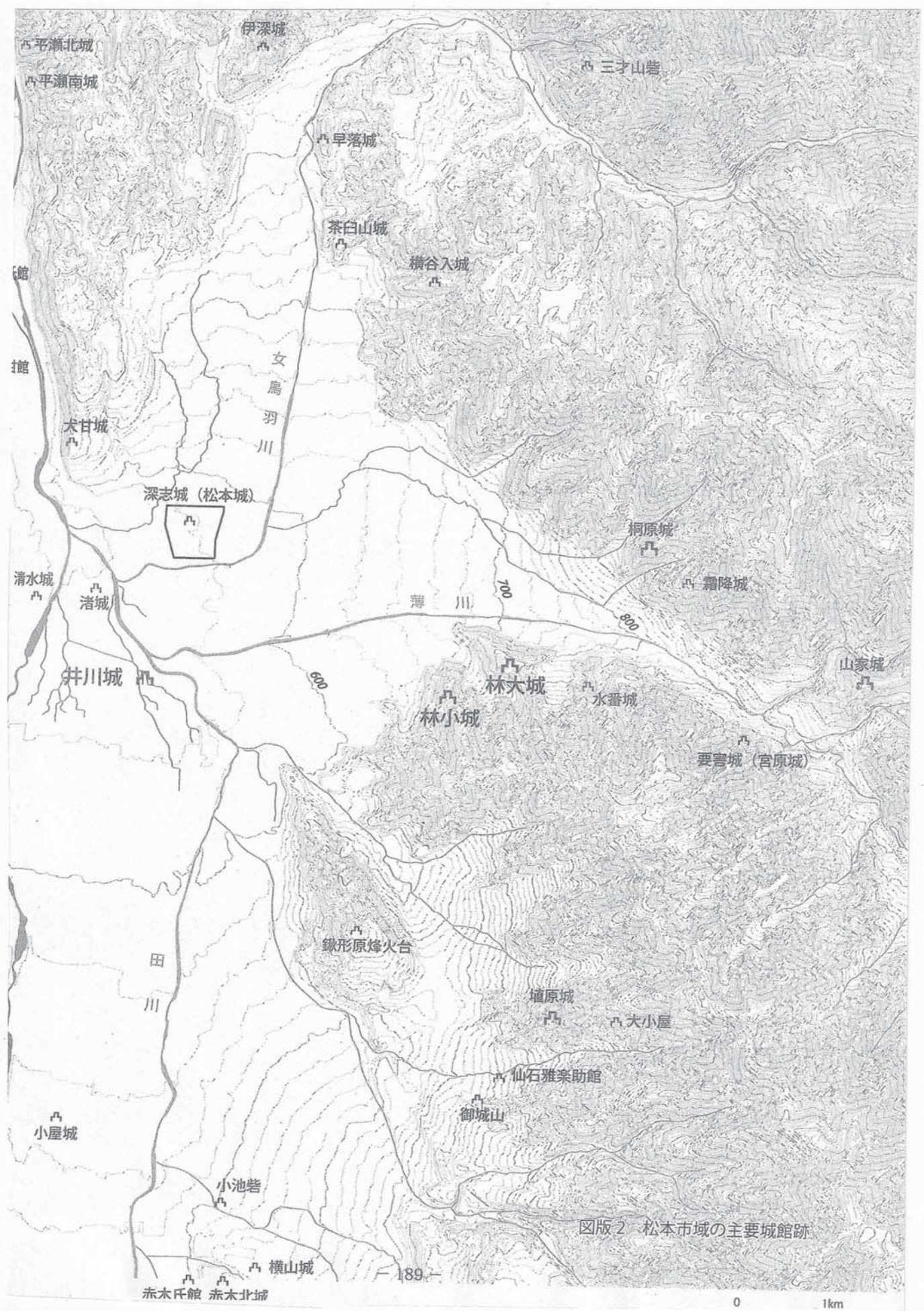


図1 松本周辺の城館跡分布図(『小笠原氏城館群』による)



図2 林大城跡、林小城跡、水番城跡位置図(『小笠原氏城館群』による)

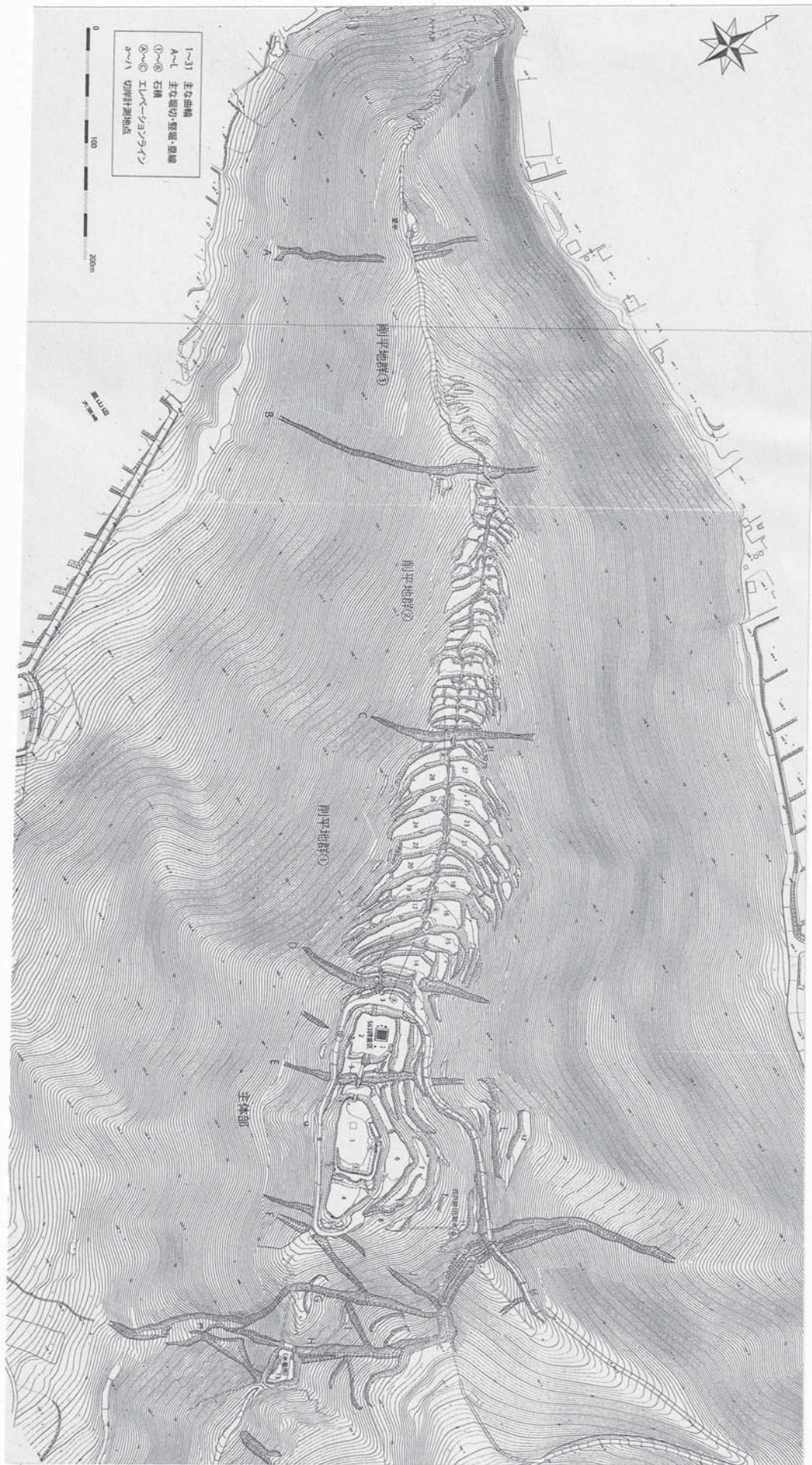


図3 林大城測量図(『小笠原氏城館群』による)